

## 防災ヘリ有料化

埼玉県山岳連盟事務局から、防災ヘリが有料化される旨の連絡があった。くるものがきたか、というのが実感である。

十数年前になるかと思うが、長野県から防災ヘリ有料化の話が出た。長野県内で発生する山岳遭難事故の当事者は、ほとんどが県外の人間だという。県外の人間のために県の予算を使うのは無駄遣い、という考えが根底にあったようだ。この時の話は立ち消えになったが、問題はくすぶり続けていた。

数年前だったか、当時長野県山岳救助隊々長を務めていたMさんからきいた話がある。防災ヘリ出動を要請する電話が入った。八ヶ岳の地蔵尾根を下っているのだが、疲労困憊で動けない、というのが要請理由だった。Mさんが、「防災ヘリは出動中なので、民間ヘリを要請しましょう」と返事をする、「じゃあ、結構です。自分で下ります」とのこと。

街中でも救急車をタクシー替わりに呼ぶ輩がいると聞いていたが、登山者の中にも防災ヘリをタクシー替わりに呼ぶ猛者がいると知って、ホントにびっくりした。

1963年4月、大学進学と同時にぼくは昭和山岳会に入会した。昭和では現役会員全員が年間掛け捨ての障害保険（山岳遭難保険）に加入していた。64年12月30日、南ア荒川前岳の雪崩で仲間5人が埋没した。全員を収容するまでに半年かかったが、搜索収容の費用のかなりの部分、保険が功を奏した。おかげで保険の重要性がしっかり飲み込めた。今日まで保険をおろそかにしたことはない。

保険に入っていれば、防災ヘリ有料化など怖くはない。雪崩埋没や行方不明でヘリ出動の回数が多ければ、保険金をオーバーすることもあるが、筆者の数少ない体験では、防災ヘリ出動費用が保険金をオーバーしたことはない。

もう一つの大きな保険が山岳会入会である。いつだったか、尾瀬の山ノ鼻で遭難予防の放送を聞いた。「遭難しないように、安全安心を期して登りましょう」という呼びかけで、もし行方不明になって地元消防隊の方に搜索をお願いすると、日当が夏で3万円、冬だと5万円かかります、だって……。夏で10人に出てもらって、10日間かかったとすると搜索費用だけで300万円必要になる。もし、山岳会に入っていて仲間たちが手弁当で搜索してくれれば、実費だけで済む計算だ。

防災ヘリ有料化から大きく話が広がったが、昨今の登山、甘くなっているようで心配しているのは、筆者一人ではあるまい。インターネットで誘い合って山に行く。分かっているのはハンドルネームくらいで、本名も連絡先もわからない。その山行で事故があったらどうする。そんな事故が実際起きているのである。

今そこに山の危険は、あるのである。それと認識して、山岳保険に加入、山岳会に入会しておきたい。